

血小板の検査について



日本臨床検査専門医会
橋口 照人

①血小板の役割は何ですか？

我々の血液には赤血球、白血球、血小板の3つの血球成分があります。赤血球はエネルギー代謝を効率よく行うための酸素を運びます。白血球は細菌やウイルスの侵入を防ぎます。そして怪我をしたとき破れた血管の壁に集まって（粘着・凝集）、傷口を塞ぎ出血（赤血球の漏れ）を止める役割が“血小板”です。

②血小板の検査にはどんなものがありますか？

血小板の検査は大きく2つに分けられます。血小板の“数”を調べる検査と“機能（働き）”を調べる検査があります。

“数”を調べる検査は健康診断などで普通に行われ、1立方ミリメートルあたり約13~32万個含まれています。“機能”を調べる検査は血小板を凝集させる試薬を加えて凝集の質を解析する血小板凝集能と呼ばれる検査や、小さな切り口（約2mmの切創）から出血する血液を30秒毎にろ紙に吸い取り、自然に止血するまでの時間を測定する“出血時間”と呼ばれる検査が主です。

③血小板はどんな病気と関係がありますか？

血小板の数が極端に少なくなったり、血小板の機能に異常があると血小板の粘着・凝集が不十分となり、傷口が上手に塞がれずに“出血が止まらない”こととなります。稀に“数”は正常であっても“機能”に異常があるために出血が止まりにくいことがあります。傷口が上手に塞がれて止血するためには血小板だけではなく、凝固因子と呼ばれる蛋白質が“糊”のように血小板を覆うようにして傷口を塞ぎます。そして止血のあとは“かさぶた”も綺麗にとれて元通りになる仕組みまで体には備わっています。さて、怪我をした時、血小板は傷ついた血管に粘着・凝集して止血のために大きな役割を果たしますが、動脈硬化などで血管の壁の性質が変化していると、そこに血小板が次々とくっついて血液の流れを塞いでしまうことになります。この流れを塞いでしまう血液の固まりを“血栓”と呼びます。血栓により血液の流れが完全に閉ざされてしまうとその血管が栄養していた組織に酸素が運ばれなくなり、心筋梗塞や脳梗塞などの病気（血栓症）を発症することとなります。加齢や肥満、喫煙、脂質異常症、高血圧などは動脈硬化を促進する方向に作用するので常日頃の健康管理は血栓症予防のためにとっても大切です。

